

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192500351		
法人名	医療生協さいたま		
事業所名	さんとめホーム グループホーム		
所在地	埼玉県所沢市中富1622		
自己評価作成日	令和4年2月9日	評価結果市町村受理日	令和4年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和4年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自前調理を開始し、利用者を含めて調理活動を行える場が出来た。 ・隣接している老健の看護師、リハビリ職員と連携し、利用者の状態の評価、褥瘡・傷の処置などを行っている。 ・利用者が希望するときにタイムリーにドライブや買い物に行くことが出来る。 ・地域資源を活用し、地域の方と利用者が交流できる機会がある。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で行動が制限される中、事業所の行事やイベントの充実に取組まれ、入居者がみんなでメニューを考えたり、それぞれに役割を担っていただく「自前調理」などを取り入れ、入居者の楽しみや活性化を図るよう努められている。また、地域や行政と連携した「買い物支援隊」へ参加・協力し、地域からも評価されている。 ・運営推進会議は、定期的に集合形式で実施され、事業所の日常の取り組みや事故、虐待事例の報告などが行われている。参加者からはコロナへの感染対策や地域の困っていることなどの意見が出され、それらの情報は事業所の運営に反映されている。 ・目標達成計画の達成状況については、災害対策での消火設備の職員全員への周知と緊急時の全館放送への対応について取り上げ、避難訓練等にも取り入れられているが、全員への周知には至らず、今後も継続して取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について考えることは少ない。	「自立支援をしながら、地域で暮らしていくことを支える」を理念に、「自分で受診に行く」、「コンビニに買い物に行く」など、入居者個々にできることを自分の力でやっていただくための支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	多世代参加型こども食堂への参加	コロナ禍の現在は日常の散歩などで挨拶を交わすなどの交流がなされている。これまで行われてきた祭りへの参加や「100歳体操」の開催など、地域との交流の再開に向けた検討も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の開催		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内での取り組みを報告し、利用者、家族、地域からの意見をもらう。もらった意見は部会などで発信し、サービス向上に活かしている。	定期的に集合形式で実施され、事業所の日常の取り組みや事故、虐待事例の報告などが行われている。参加者からはコロナへの感染対策や地域の困っていることなどの意見が出され、それらの情報は事業所の運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡を取ることはあるが、密に連絡を取っているかは定かではない。	法人が窓口となり、様々な協力連携が図られている。加算について運営推進会議で相談されたり、コロナ禍の給付金や備品の配布などの情報も同グループの事業所と情報を共有しながら対応されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	椅子に縛りつけたり居室に閉じ込めたりしている事はないが、玄関の施錠とエレベーターを施錠している現状がある。	実際に発生した事例を取り上げながら、運営推進会議で報告し話し合いも行われ、今後の取り組みや改善点などを提案し確認されている。現在センサーを使用されているが、職員の見守り強化などを実施することで取り外しも検討されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ユニットあるうち、片方だけ職員不在など単独業務にならないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会はなかったが、後見人との連絡等、やりとりは職員が実施できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は管理者等が主となり実施している。改定事項などは電話連絡やお知らせ等で実施。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	部会などの職員会議で話し合いの場を設け、情報共有する機会があった。	自立の入居者からの「買い物やドライブに行きたい」などの要望には随時応えられ、余暇の充実を図るよう努められている。家族からの声や希望は運営推進会議などの機会に伺われ、また、今後は面談の機会を増やすことも検討されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会などの職員会議で話し合いの場を設け、情報共有する機会があった。	面談などを通して、職員からの不満も含め、管理者が把握できなかったことなどを意見・提案として発言されている。職員間のコミュニケーション強化にも目を向け、話し合う機会を意識的に持つ取り組みも検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度の面談を実施。自己評価表の実施。面談等での聞き取りで現状把握は出来ていたが、人員不足でいっぱいだった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量チェックの実施。 学習会への参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所研修の実施。 オンライン学習会の参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人との会話のなかで、困りごとを把握している。 不快に思われないように表情や態度などに気をつけて接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話の対応時に利用者の様子などを報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学対応時に家族から困っている事、今の現状の聞き取りを行い、状況によって他サービスへとつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話できる時間も取れ、コミュニケーションも取りやすいため、関係は築きやすい。その人の希望を叶えられる様に活動を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時電話連絡での対応の際に要望を聴いたり、情報交換することで良好な関係を気づけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の他、友人や近所の人が面会に来ることがある。記録に残し、職員間でなじみの関係を共有できるように努めた。	入居者からは「梅干しが食べたい」などの以前から慣れ親しんだ嗜好品の申し出があり、今後も継続されるよう支援されている。入居後には入居者同士が親しくなり、隣同士でお互いを気にかけるなど新たな馴染みも作られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットに捉われず、個人の性格や相性などを考慮した上で、食席を変更したり、レクへの参加や余暇時間を過ごせるような支援を努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	老健・小多機へ退所した方が多く、職員間で情報共有を行い、安心して過ごせるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が希望することで思いや意向を聞きとり、出来る限り実現できるように努めている。	入居時の情報や入居後は入浴中や居室でのコミュニケーションを図ることで、今までわからなかったことを知るなど、思いや意向の把握に努められている。入居者個々の能力などの状況把握に努められ、更に職員間の情報共有にも取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当利用者に関しては生活歴を把握するように努めたが、全利用者に対しては出来ていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況に応じて臥床したり、余暇時間を過ごしたり、以前に比べメリハリがついた生活が出来ている。利用者の状態の把握はこまめに記録することで把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で話し合う機会はあるが、介護計画にも反映されているが、家族からの聞き取りは全員には出来ていない状況となっている。	介護計画作成担当者が中心になり、各方面から入居者の情報を集め、目的がぶれることなく、現状に合わせたプランを作成されている。作成されたプランは面会時などに家族に開示を行い、納得と同意も得られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実施や気づき、工夫等を記録に残し、情報共有できるように努め、カンファレンスに繋げることが出来た。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ニーズに合った支援を提供しているが、柔軟性にはかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出、買い物、選挙投票、近くの野菜直売所など地域とかかわりを持てるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に往診対応だが、必要に応じて他医療機関へ受診に繋がるように依頼したり、予約したりしている。	かかりつけ医への受診希望も自由で、受診時には家族が同行されるが、緊急時には職員が付き、医療との直接の対応が行われている。日常は往診対応が基本で、医療とのコミュニケーションも十分図られ、適切なサービスが受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に聞いた情報を老健看護師と情報共有し、適切な診察へつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを作成し、施設内での情報を伝えている。また病院の相談員と情報共有し、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族カンファや医師からの病状説明を通して、身体の状態や終末期の希望など家族と共有できるように努めている。	重度化や終末期については入居時だけでなく、それぞれの段階での説明と話し合いが行われ、入居者・家族の希望を聴き取られている。家族の意向を最優先に最後までどうしたいのかを伺い、他の施設、病院なども紹介されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に学習会を開催し、AEDの使用方法、KYTなどを学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、職員は学習している。しかし、地域との協力体制が築けていない。	火災だけでなく水害や地震などの自然災害に対する対策を検討され、部門の責任者を中心にハザードマップの確認も行われている。また、防災マニュアルも作成され、誰もがいつでも閲覧し、それぞれの対策の把握と周知ができるよう取り組まれている。	防災対策は事業所職員全員が同じレベルで行われることが重要と想定されることから、マニュアルや消防設備の知識について職員に周知し、情報共有に取り組まれることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけ、対応に努めている。しかし、職員に余裕がある時、無い時によって対応が変わってしまっている。	入室時の声掛けやドアの開閉など基本的なマナーを守り、人格の尊重とプライバシーの確保に努められている。また、朝礼や申し送りなどは入居者の前ではなくスタッフルームを利用するなど、個人情報への気配りも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や着替えなどなるべく自己選択できるように努めているが、全利用者にはできていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴時間などできるだけ希望に沿って支援するように努めている。しかし、全利用者にはできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時に整容を行い、月1回理美容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの把握を行ったり、出来る範囲で食事の準備片付けを利用者に行ってもらっている。	自前調理を行ったり、バイキングやたこ焼き、花火大会では焼きそばなど、日常の食事以外に目先を変えて入居者に楽しんでいただいている。梅干しなどの嗜好品にも気を配り、さらにはうどんや蕎麦などの麺類も食卓に出されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて摂取量を管理している。状態によって食形態の変更や水分が少ない方に対してゼリーを提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に応じて声掛け、介助、義歯洗浄を行っているが、自立した方に対しても介入した方が良いと思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握できるようにしている。定時誘導だけでなく、利用者の行動に併せて声かけ誘導を行っている。	トイレでの排泄を基本に排泄支援がなされている。立位のとれない入居者には職員が二人対応するなど、入居者それぞれの能力を見直し、自立に向けた支援への取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便管理を行っている。下剤に頼るだけでなく、水分や乳製品の提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否のある利用者に対してはタイミングに合わせて対応できている。しかし、ほとんどの利用者は曜日を固定し、決まった時間に誘導している。	職員と1対1の個浴で、同性介助への希望にも対応され、浴室内や脱衣所のヒートショック対策も取られている。時間帯や入浴形態などできるだけ希望に沿うよう努められ、夜間や早朝の入浴支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人のペースに合わせて休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的は往診時に医師と確認している。また薬剤師とも情報共有している。しかし、内服薬の副作用や用量については理解が乏しい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一部の利用者には個々に沿った支援(洗いや塗り絵)が出来ていた。また楽しみを持っている方はそれを尊重して出来るようにしていた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、散歩、買い物を職員付き添いのものと実施している。またコロナの状況により買い物代行を行っている。	コロナ禍で動きが制限される中、中庭やベランダに出での外気浴や散歩、近隣での買い物の支援が行われている。併設の介護老人保健施設の足湯にも出かけるなど、小グループを作りながら外に出られる機会を増やせるよう取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本自己管理としているが、難しい場合は金庫にて預かり対応している。利用者の希望の物を買物代行をしている。また職員が都度所持金確認をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応えながら支援している。(スマホの管理、電話の取次ぎ、ポストへの投函)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度湿度管理を実施。また換気を行ったり、夜間帯に床掃除をしている。季節感をだすため、飾りを利用者と作成し、フロアの食堂に飾った。	共用空間は入居者の生活空間として動線を意識し、無駄なものは置かず、ポットなどを使いやすいよう設置されている。席次などは特に決めず、入居者の希望を優先に座っていただき、居心地良く過ごされるよう支援がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席を固定したり、ソファを活用してフロア環境を整備した。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や電化製品などは家族と相談しながら環境を整備している。また居室ベランダにて好きな草花を育てている。	衣装ダンス、テレビ、携帯電話等、希望に応じて持ち込みいただいている。その人その人に合った環境づくりに努められ、イベントなどにも参加を強制されることなく、それぞれの居室で自由に過ごされるよう支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできる事を活かして、出来ることはやってもらうように支援している。(洗い物、モップ掛け、掃除機)		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームさんどめ

作成日: 令和 4年 3月 15日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	異動者、新規入職者が多く、施設内の消防設備や全館放送への対応など全職員に周知されていない。	施設内で働く職員全員が施設内の消防設備、全館放送、避難経路を理解できている。	3月介護部会にて全職員へ情報提供・確認を行う。また3/15に防災訓練を開催し、職員に参加を促し、避難経路、方法を学ぶ	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。